

1. 仮名より漢字の方がやさしいこと

奈良時代から平安時代にかけて仮名が作られて以来、仮名は漢字よりも^{やさ}易しい字だといふ考へが次第に定着して行って、仮名は女手、漢字は男手と呼ばれ、漢字は教養ある男子でなければ使ひこなせないが、仮名は字数も少ないし、何よりも文字そのものが易しいと考へられてきました。ところが私が昭和 28 年に、指導主事をやめ、小学校一年生を担任して指導する中で発見したのですが、始めて文字を学ぶ子供にとっては漢字の方が^{はる}遥かに易しいことが^{わか}判りました。極端な例ですと、一年かかっても仮名が一字も覚えられないといふ^こ児がいます。これはいはゆる遅進児なのですが、この児が漢字は楽々と覚えるのです。今日、会場に並べられてゐる『親こそ最良の教師』（グリーンソアロー出版社）といふ本の中にその実例が掲載されてゐます。重度の脳障害児で、仮名を一年以上一所懸命に勉強したが一字も覚えられなかったといふ^こ児ですが、私の指導で毎日一字ずつ漢字を覚えるやうになりました。かういふ実験記録や、いろいろな障害児を扱ってゐる実践記録がありまして、さういふ記録をお読みいただければ^{わか}解るのですが、能力のごく低

い児は仮名はほとんど覚えられませんが、漢字はどんどん覚えられます。それで、漢字を覚えますと、それによって能力が高まりますので、今度は仮名も覚えられるやうになります。かりいふ事実が 30 年前から解ってきてゐます。